



松ヶ江南小学校校長室

学力特集号

平成28年10月21日

文責 瀬藤 早苗



みんな仲良く げんきで はたらき まなびとる 子ども
「松南ゆるキャラ みげま団長」

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

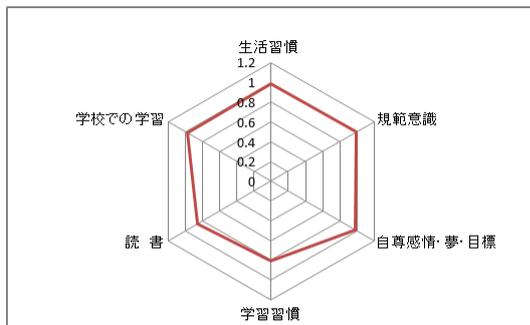
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部分を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	全国平均正答率をわずかに下回っていたものの、昨年度より上昇していた。よくできた問題としては、登場人物像について複数の叙述をもとに捉える問題、努力が必要な問題としては、書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する問題があげられる。	ほぼ同程度
国語B	全国平均正答率をやや下回っていたものの、昨年度より上昇していた。よくできた問題としては、目的に応じて複数の本や文章などを選んで読む問題、努力が必要な問題としては、目的や意図に応じてグラフや表を基に自分の考えを書く問題があげられる。	下回っている
算数A	全国平均正答率をやや下回っていたものの、昨年度より上昇していた。よくできた問題としては、直方体における面と面の位置関係の問題、努力が必要な問題としては、末尾の位のそろっていない小数の足し算や小数の大小関係の問題があげられる。	下回っている
算数B	全国平均正答率をやや下回っていたものの、昨年度より上昇していた。よくできた問題としては、面積の問題で条件を変更した発展問題、努力が必要な問題としては、正方形に内接する円の半径を求める問題や割合の問題があげられる。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・生活習慣を身に付けている児童の割合が増加している。
- ・学校での学習に取り組む態度が積極的になっている児童の割合が増加している。
- ・将来の夢や目標をもっている児童の割合が減少している。
- ・自分で計画を立てて勉強している児童の割合が減少している。
- ・読書好きな児童の割合が減少している。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- ・算数科を中心にノート指導を行い、書く力をつけていく。
- ・朝の校内放送を活用して、言葉の学習を行う。
- ・サイレント掃除を行い、責任をもって働くこと、協力して働くこと、落ち着いて働くことなどを体感し、自分達でもできるという自尊感情を高めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・全員がしなければならないもの（宿題等）と、個人が学習内容を選択できるもの（自主学習等）とを組み合わせ、児童が家庭でも計画的に学習が行えるようにしていく。